PAL NEWS 2011/03 パル動物病院

～人と動物の絆～

よりよい関係を目指して

私たちは最先端の診療技術を生かし、地域に密着した動物病院を目標にしております。

●●● 診療時間 ●●●

●裾野センター病院

月～土　午前 9：00 ～ 12：00
　　午後 2：00 ～　9：00
日・祝　午前 9：00 ～ 12：00
　　午後 2：00 ～　7：00

●沼津病院

平日　午前 9：00 ～ 12：00
　　午後 2：00 ～　7：00
日　　午前 9：00 ～ 12：00
祝・木曜日休診

●●● お問合せ ●●●

・裾野センター病院
〒 410-1123
静岡県裾野市伊豆島田 843-5
TEL: 055-993-3135

・沼津病院
〒 410-0058
静岡県沼津市沼北町 1 丁目 5-27
TEL: 055-922-6255

・ウェブサイト
http://pal-ah.jp

ウサギを飼育する

今年はウサギ年です。ウサギ年になると、干支人気の影響を受け、ウサギを飼育する人が増える傾向にあります。ウサギはとてもかわいい動物ですが、その飼育方法は犬や猫とは異なります。今回はウサギを飼育するにあたり、最低限必要な知識をご紹介します。

活動性

ウサギは早朝及び、夕方から夜にかけて活動が活発になります。活動が活発になる時間に合わせて、ケージから出して運動をさせてあげましょう。

食事

ウサギは草食動物です。6 ヵ月齢くらいまでの成長期はアルファルファを、その後はチモシーを主体とした牧草が適しています。また、ペレットは牧草を補完する形で与えるとよいでしょう。歯の健康維持には牧草を主体とした食事が勧められます。

飲水

1 日で体重 1 キロあたり 50 ～ 100ml の水を飲みます。飲水量は食事内容によっても左右されますが、異常に増えたり減ったりするときは、何らかの疾患がある場合があります。

便

ウサギは球形の硬い便（硬便）と、ぶどうの房のように連なった、軟らかく臭いの強い盲腸便をします。普段、私たちが目にするのは硬便です。

健康なウサギは、体重 2.5-3kg の場合、一日 150 個前後の硬便を排泄します。食欲が低下していたり、腸の運動が低下しているときは、硬便の数が減ったり、大きさが小さくなったりします。

盲腸便はウサギが再度摂取するために排泄されるもので、アミノ酸やビタミン類を豊富に含んでいます。肛門に口を持っていき、排泄される盲腸便を直接食べるので、健康なウサギならば、普段私たちが盲腸便を目にする機会は少ないと思います。食事の内容によっては、液状になることもあり、下痢のように見えることもあります。

肥満していたり、脊椎疾患があるウサギは、口を肛門まで持っていくことができません。また、歯牙疾患があるウサギは、口腔の痛みのために、盲腸便を食べ残します。そのため、臀部の被毛に食べ残した盲腸便がからまり、さまざまなトラブルを引き起こすことがあります。

腸炎を引き起こしている場合、硬便、盲腸便共に軟らかい、あるいは液状の便になります。

排尿

ウサギの尿の色は多岐に渡ります。正常でも、黄色、オレンジ色、茶色、赤色と様々です。これは、食事の植物の色素に左右されるためです。キャベツ、ブロッコリー、タンポポを食すと、赤色尿になることがあります。尿に血液が混じり赤くなる血尿との区別は、尿検査で行います。また、生殖器疾患でも血液が尿に混ざることがあります。

ウサギの尿は炭酸カルシウムが多く含まれているため、濁っていることもあります。膀胱炎などでも尿は白く濁ります。

参考文献

ラビットメディスン　ファームプレス
よくわかるウサギの健康と病気 誠文堂新光社

今月の専門科診療

今月は下記の日程で専門科の診察を行います。ご希望の方は事前にご予約ください。
（カッコ内はカレンダー内の省略形です）

◆歯科（歯）
歯学博士 奥田 綾子 先生

◆エキゾチックペット（エキゾ）
エキゾチックペットクリニック
霍野（つるの） 晋吉 先生

◆腫瘍科（腫瘍）
麻布大学獣医学部附属動物病院
川村 裕子 先生

◆画像診断科（画）
獣医学博士 小野 晋 先生

◆問題行動治療科（行）
獣医学博士 吉川（きっかわ） 綾 先生

◆眼科（眼）
獣医学博士 当院：小野 啓

月	火	水	木	金	土	日
	1	2 行･眼	3	4	5 眼	6
7	8	9 画 歯･眼	10	11	12 眼	13
14	15 腫瘍	16 眼	17 エキゾ	18	19 眼	20
21	22	23 画･眼	24	25	26 眼	27
28	29	30	31			

鳥類の飼育管理上の注意点

飼鳥の病気の原因には、不適切な管理や誤った飼育によるものも多いと言われています。今回は、鳥類の飼育においてよく見かける間違いをいくつかあげてみたいと思います。

・けがの際に軟膏（特に油性のもの）を塗る事：

羽毛が張り付いて、保温ができなくなります。また、口ばしでつついて出血を助長したり、毛引症や自咬症の原因になったり、薬を経口で摂取してしまうこともあります。

・水浴びに温かい湯を用いる事、人が強制的に水浴びさせること

水浴びに温かい湯を用いると羽毛についている油脂が溶け、水がしみ込みすぎて体温の低下を招きます。フィンチ類・カナリアは、水浴びが大好きですが、セキセイインコは、本来水浴びを好みません。水浴びは、無理にではなく自由に行わせます。換羽中の鳥の水浴びは控えましょう。

・翼の羽を切る事

飛んで逃げないためや、早く馴らすために翼の羽を切る方がいますが、鳥自身には利点がありません。羽を切ると、鳥は飛べるつもりで飛び、落下し、外傷を受ける恐れがあります。また、種々の危険から逃げることができなくなります。やむを得ず切るのであれば、平衡に飛べる程度にします。

・無理に言葉を覚えさせる事

話しかけた言葉を自然に覚えるのはストレスになりませんが、エンドレステープなどを利用して無理に覚えさせるのは避けたほうがよいでしょう。言葉に興味を持ち、よく話すようになったら、徐々に覚えさせるのが良いでしょう。

・人の食べ物を与える事

不適切な食事は、そ嚢炎、口角炎、口内炎、消化管内真菌症の原因となるので控えましょう。パン・白米は、週1回程度ならほぼ問題ありませんが、常時、パン・白米・うどんなどを与え続けていると、そ嚢内・腸内真菌症になる危険性が高いと言われています。味付の食べ物（塩味・醤油味など）は、腎臓・肝臓に悪影響を及ぼします。

・長時間日光にあてる事、また湿気の多い所に放置する事

夏場は涼しい時間を選び午前中1時間程度、冬場は風の強くない暖かい日を選んで午前中いっぱい、植物の葉やブラインドの影の間から、太陽光線にあてる事は健康的です。しかし、幼鳥や病気の鳥では逆効果なので日光浴は避けましょう。

・一日中ケージに閉じ込めておく事

1日に10分でもよいので、飼い主が見守ることが可能な時間帯にケージから出して運動させましょう。ただし、長時間遊ばせる事、飼い主が別の作業をしながら遊ばせる事、台所など危険な部屋へ行かせる事は絶対に避けましょう。特に、戸締りには注意しましょう。

・メスのケージに巣を1年中入れる事

本来、巣はベッド代わりではなく、あくまでも繁殖のためものです。1年中不定期に産卵してしまう可能性もあります。メスが3才までは、春2回、秋2回の巣引きは可能です。幼鳥が欲しくても、それ以外の時期は巣を入れないようにしましょう。また、大きな餌入れを入れる事や、下に紙を敷くこと、暗がりを与えることなども 巣引きの衝動を起こさせる事があるので、注意しましょう。

適正に飼育することは、病気を予防する上でも重要です。飼鳥の生活をできる限りストレスのない状態にすることを第一に考えましょう。

参考文献

飼鳥の臨床指針（インターズー）
家庭動物の医学大百科（PIE BOOKS）

パルニュース 2011 年 3 月号

ANIMAL HOSPITAL